

製品名: LRP2 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab13431**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	IHC, ICC/IF
反応性	ヒト、ラット、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	IHC 1:50-1:300, ICC/IF 1:50-1:200
分子量	512kDa

抗原情報

遺伝子名	LRP2
別名	LRP2
遺伝子 ID	4036.0
SwissProt ID	P98164
免疫原	ヒトタンパク質由来の合成ペプチド。アミノ酸範囲: 2890~2970

背景

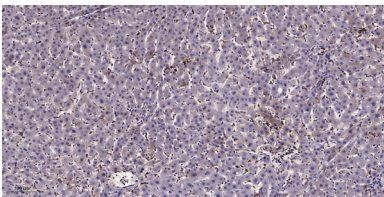
この遺伝子によってコードされるタンパク質、低密度リポタンパク質関連タンパク質 2 (LRP2) またはメガリンは、多リグランドエンドサイトーシス受容体であり、様々な組織で発現しますが、主に腎臓などの吸収上皮組織で発現します。この糖タンパク質は、大き

なアミノ末端細胞外ドメイン、単一の膜貫通ドメイン、そして短いカルボキシ末端細胞質尾部を有します。細胞外リガンド結合ドメインは、アルブミン、アポリポタンパク質 B および E、リポタンパク質リパーゼなど、多様な高分子と結合します。LRP2 タンパク質は、リポタンパク質、ステロール、ビタミン結合タンパク質、ホルモンなど、数多くのリガンドの再取り込みに不可欠です。このタンパク質は細胞シグナル伝達にも関与しています。細胞外リガンドには副甲状腺ホルモンや形態形成因子ソニックヘッジホッグが含まれ、細胞質リガンドには MAP キナーゼの足場タンパク質や JNK 相互作用タンパク質が含まれます。疾患のリサイクル: LRP2 の欠陥は、ドナイ・バロー症候群 (DBS) [MIM:222448] の原因です。顔面聴覚腎症候群 (FOAR) とも呼ばれます。DBS は、脳梁無形成症、先天性横隔膜ヘルニア、顔面形態異常、眼球異常、感音難聴、発達遅延などの重篤な奇形を特徴とする、まれな常染色体劣性疾患です。FOAR 症候群は、顔面奇形、眼球異常、感音難聴、タンパク尿を伴う疾患として初めて報告されました。DBS と FOAR は当初、異なる疾患として記載されていましたが、両疾患を区別する典型的な特徴は、タンパク尿の存在と、FOAR では横隔膜ヘルニアおよび脳梁異常が認められないことでした。初期の報告では、両疾患は多くの表現型の特徴を共有しており、同一疾患である可能性もあると指摘されていました。一部の特征 (例えば、脳梁無形成症およびタンパク尿) の発現にはばらつきがありますが、現在では DBS と FOAR は同一疾患であると考えられています。機能: キュビリンと共働して HDL エンドサイトーシスを媒介する (類似性による)。副甲状腺ホルモンおよび副甲状腺ホルモン関連タンパク質の放出調節に関与している可能性がある。類似性: LDLR ファミリーに属します。類似性: 17 個の EGF 様ドメインを含みます。類似性: 36 個の LDL 受容体クラス A ドメインを含みます。類似性: 37 個の LDL 受容体クラス B リピートを含みます。サブユニット: プラスミノーゲン、細胞外マトリックス成分、プラスミノーゲンアクチベーター-プラスミノーゲンアクチベーターインヒビター I 型複合体、アポリポタンパク質 E 濃縮 β -VLDL、リポタンパク質リパーゼ、ラクトフェリン、CLU/クラステリン、およびカルシウムに結合します。受容体関連タンパク質 (RAP) とともに多量体複合体を形成します。アンキリンリピートファミリー A タンパク質 2 (ANKRA2) に結合します。LRP2BP と相互作用する。組織特異性: 腎近位尿細管を含む吸収上皮。

研究分野

ハリネズミ;

画像データ



パラフィン包埋ヒト肝癌の免疫組織化学分析。1、抗体を 1:200 に希釈した (4°C で一晩)。2、抗原賦活化には Tris-EDTA、pH9.0 を使用した。3、二次抗体を 1:200 に希釈した (室温、45 分)。